

有料試写会に80人。みる会が発足

4月28日、あきる野ルピアで映画「日本の青空」の有料試写会を行い約80名が鑑賞しました(写真)。試写会に先立ってあきる野市在住の同映画原作・脚本の池田太郎さん(写真)が挨拶しました。池田さんは「憲法をめぐる



オリジナル脚本を依頼され、都立図書館や国会図書館に通いつめ資料を繰りながら、憲法学者の鈴木安蔵を見つけ出した。自民党憲法調査会の高柳会長らの著作の中に、安蔵らの憲法研究会草案とGHQ草案の類似性を自ら認める「注」を発見した時の感動は忘れられない」と脚本にこめた熱意を語っています。また、映画の中には劇中劇で五日市憲法も取り上げられています。



試写会に続いて「劇映画『日本の青空』をみるあきる野の会(略称みる会)」の発足会が行われ、会則やアピール(裏面)を確認し、6月2日、秋川キラホールでの上映を1000名以上の鑑賞で成功させることなどを決めました。また、同会代表に瀬沼辰正(あきる野原水協理事長)の、事務局に前田眞敬(あきる野9条の会事務局長)を選出し、参加した約40名が実行委員として上映運動に携わることになりました。

みる会への参加団体は15団体となりました(裏面記載)

試写会の感想です



▶ 感動しました。民間人が作った草案とそのやり取り、平和と暮らしに大きくかかわっている憲法のことなどがよくわかりました。五日市憲法の寸劇も面白かったです。(HTさん)

▶ 鈴木安蔵が、獄中で右翼から自由民権運動家までのありとあらゆる関連書物を読み研究したことを知り、戦後短期間にあれだけの憲法条文を著すことができたのだと理解した。また、安蔵の妻の並々ならぬ苦労があって実現しことも特筆すべきことだと思った。日本人が知らなかった憲法誕生の話を興味深くみた。(MMさん)

▶ 五日市憲法も登場するし、最後には『ワーッと』声を上げたいようなシーンも出てきました。なんとと言っても脚本家が市内在住だし、私たちににとっては身近な存在が三つもありました。その上、憲法はやっぱり日本人が中心になって作られたんだとよーくわかった映画でした。(KKさん)

とうきゅう前でチラシを配布

5月3日の憲法記念日に約1時間、とうきゅう前で映画「日本の青空」のチラシを配り、ハンドマイクで訴えました。12名が参加しチラシ500枚を配布しました。



NHK教育テレビが再放送 「焼け跡から

生まれた憲法草案」GHQが着目した草案は、どうやって生まれたのか。中心メンバーの鈴木安蔵の記録からは国民主権に基づく新たな憲法を生み出そうと、議論を重ねていった様子が浮かび上がってきた…。映画「日本の青空」で描かれた憲法成立過程を取り上げたドキュメンタリー。好評に応えての再放送(5月10日)でした。(写真は故鈴木安蔵氏)

画「日本の青空」で描かれた憲法成立過程を取り上げたドキュメンタリー。好評に応えての再放送(5月10日)でした。(写真は故鈴木安蔵氏)

【アピール】 映画「日本の青空」上映運動を成功させましょう！

私たちは、あきる野市において映画「日本の青空」を上映するに当たり、「劇映画『日本の青空』をみるあきる野の会（以下みる会）」を発足させ、上映の成功をめざして運動を開始しました。

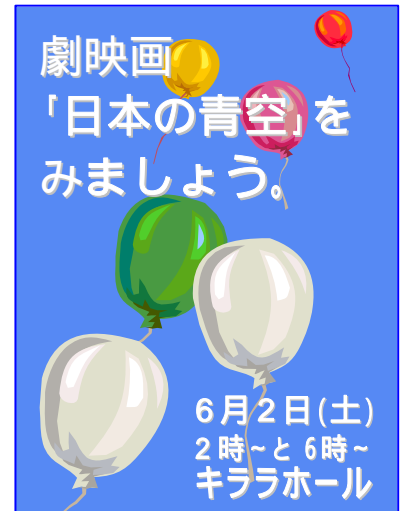
映画「日本の青空」は、日本国憲法施行 60 周年を記念して、平和憲法を守るための映画として、製作協力券を全国に普及して制作した映画です。原作・脚本はあきる野市に在住の池田太郎さん、私たちの町で発見された五日市憲法も登場します。今この時代に多くの皆様にみていただきたい映画です。

この映画の上映を成功させるために、上映を成功させる一点で力を合わせる 劇映画「日本の青空」をみるあきる野の会へのご参加と映画の上映成功のために次のようお願い申し上げます。どれか一つでもかまいません。

1. みる会へご参加ください（チラシ等にお名前、団体名を記載させていただきます）
2. 実行委員になって、運動を推進してください。
3. 映画の宣伝（ポスターの掲示、チラシの配布など）にご協力ください。
4. チケットを預かっていただき販売してください。
5. 募金・その他ご協力ください。

多くの皆様のご協力で 6 月 2 日秋川キララホールでの上映を成功させましょう。

2007 年 4 月 28 日



参加団体（4月28日現在・順不同）

原水爆禁止あきる野協議会、新日本婦人の会あきる野支部、都教組あきる野地区協、JM IU セラテック支部、秋川の自然にしたしむ会、のびのびサークル、あきる野 9 条の会、日の出九条の会、檜原九条の会、福生市民九条の会、健康友の会秋流支部、都障教組あきる野学園養護学校分会、子どもと教育を語る会、日本国民救援会秋流支部、西多摩労組連

チケットの集約日と宣伝

毎週金曜日に販売数を集約します。

団体：新婦人・佐野さん 596-3463

地域：ト・華房さん 559-3932

渡辺さん 558-9766

宣伝：三井さん：チラシ配布、ポスター掲示にご協力ください。宣伝カーを 5/20~6/1 運行します。運転手、アナウンサーにご協力ください。

当日の要員を募集中

昼組：12:50~5:00、夜組：4:50~9:00

各 受付 6 名、場内整理 6 名、場外整理 3 名、保育 2 名（最低確保人数です）



会則（4月28日発足会で確認されました）

1. 会の名称：劇映画「日本の青空」をみる あきる野の会（略称「みる会」）とします。
2. 目的：映画「日本の青空」を上映し、多くの人々に鑑賞していただくこと。
3. 組織と運営：目的に賛同する団体及び個人で会を構成し、実行委員会を開催して進めます。会に代表者をおきます。また、事務局を設け日常業務をすすめます。
4. 財政：チケット代金、募金その他でまかなく、（共同映画社担当ですので、チケット代金すべてが収入にはなりません）
5. 主な活動：映画とみる会の宣伝、チケットの普及など上映成功に必要なこと。

代表者：瀬沼 辰正（あきる野市油平 49-8 / 559-0354）

事務局：前田 眞敬（あきる野市二宮 1421-4 / 558-785）

実行委員会開催のご連絡

5月12日(土)、19日(土)、26日(土)、31日(木)

いずれも 10:30~12:00 市役所 1 階ロビー

個々人にはご連絡しませんが、ご出席よろしくお願ひします。

あなたも実行委員に
参加は志願制です



現在550枚販売 あと2週間

昨日、実行委員会でのチケット集計は550枚となりました。普及の経験では「チラシに手紙をつけてポストに入れておき、後日尋ねていったら、何軒かに購入してもらった」「こうした運動にかかわったことのない

った人に普及を頼んだところ8枚も売ってくれた」「製作協力券を買ってもらったところに頼んだら、家族の分として2枚ふえた」「工務店のパートの人に話したら“憲法の話がどんどん進んでいるようだが、さっぱりわからない。映画をみてみましょう”とってもらえた」など新しい部分への普及も進んでいます。一方、「なかなか買ってもらえない」など普及の難しさも話されています。新婦人ルートは192枚を普及。福生市民九条の会からは新たに30枚届けてほしいと連絡がありました。これまでの枠を越えて、幅広い方々に映画を勧めましょう。1000名の鑑賞をめざしてもう一息、頑張らしましょう。次回は26日(土)10:30~12:00 市役所1階。

宣伝カーが走りはじめました。

5月18日から快調に走っています。運転手はほぼ埋まりましたが、1日の稼働を増やすために、運行時間帯を調査しますので登録されている方はよろしくお願ひします。担当は三井さん & FAX558-6334

前売券の取扱店

長谷川あられルピア店を訪ねたところ、17日に3枚買っていただいたそうです。出足好調です。「前売券あります」のポスターがお店に張ってあります。取扱店チラシへ追加：森の風（檜原 598-1685）

秋川駅前でチラシ配布

5月17日、11名が参加して約330枚を配布しました。高校生も多いことから若い人むけのメッセージも掲載しました。

チラシ配布の宣伝にご協力を！

- 24日(木)秋川駅前 3時から4時まで
- 26日(土)とうきゅう前、3時から4時まで
- 27日(日)とうきゅう前、3時から4時まで

実行委員会のお知らせ

次回26日(土)、直前31日(木)

いずれも10:30~12:00市役所1階ロビー

活動のまとめ、経験交流、計画を話し合います。ご出席よろしくお願ひします。どなたも参加できます

参院で1カ月「審議尽くされてない」

駆け足のような1カ月足らずの審議。東京都豊島区の鹿島理智子さん(79)は、採決の様子をテレビで見ため息をついた。「議論は尽くされていない」

憲法学者だった父の鈴木安蔵(故人)は45年、民間グループ「憲法研究会」の中心メンバーとして、国民主権や法の下の平等などを盛り込んだ「憲法草案要綱」をま

憲法草案まとめた 故鈴木安蔵の長女



鹿島理智子さん

とめ、内閣と連合国軍総司令部(GHQ)に提出。これを研究したGHQが現憲法の草案をつくった。現在、各地で上映会が続いている映画「日本の青空」では主人公として描かれている。

長女の鹿島さんは幼いころ、母に連れられて治安維持法違反で投獄された父を訪ねた。古本屋で参考書を探しては差し入れた。父はそれを読み、獄中で憲法研究を重ね、戦後に結実した。現憲法について、「GHQの押しつけた」と言われることには違和感があるが、全条文の一字一句を愛するべきではないとは思っ

ていない。父も「いつかは憲法を変えなくてはいけないだろうな」とも漏らしていた。だが、今回の法案審議には納得がいかない。参院では連日のように数時間の審議が続いた。新聞記事を切り抜きながら議論を追ったが、理解がなかなか進まないうちに採決を迎えた。「最低投票率の問題などはどうなるのか。あれよあれよという間に、国民が丸め込まれてしまった」最近、父が詠んだ歌が頭に浮かぶ。この子等が行く道悲し然が思い 嘆きこころは深まりゆくも 憲法よりも食糧と 虚無の笑いを浮かべつつ 語れる人を見つつ悲しき 前者は戦前に獄中で、後者は戦後にそれぞれ作られた。国が危険な方向に進んでいることへの危機感と、生活苦から憲法への関心が高まらないことへのいらだち。今の状況もだんだん似てきたような気がする。

映画の主人公・憲法学者の故鈴木安蔵氏の長女が新聞で語る。朝日新聞5月15日付に掲載されました。



